日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会
（事務局　圓藤吟史）
〒545-8585　大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
ＦＡＸ　06-6646-3160
発行責任者（地方会長）　堀口俊一

第40回　近畿産業衛生学会

主　催　日本産業衛生学会近畿地方会
学会長　宮下和久（和歌山県立医科大学衛生学）

日　　時　平成12年11月18日（土）　9：30～17：00
会　　場　和歌山県立医科大学　講堂（特別講演、シンポジウム）
大講義室（第１会場・一般講演）
講義室１（第２会場・一般講演）
講義室２（第３会場・一般講演）
生涯研修・地域医療センター研修室(幹事会、評議員会)
生協食堂（懇親会）
一般講演　10：00～12：00
特別講演　13：40～15：10　「新しいパラダイムに向けての産業保健」
岩田弘敏（岐阜大学名誉教授・岐阜産業保健推進センター所長）
座長　橋本　勉（和歌山県立医科大学公衆衛生学）
シンポジウム　15：20～17：00　「21世紀の企業における健康管理のあり方をめぐって」
1) 健康管理の21世紀ビジョン　北原照代（滋賀医科大学予防医学）
2) 健康管理における企業戦略　茂原　治（和歌山健康センター）
3) 産業看護の未来像　西内恭子（大阪ガス・健康推進チーム）
4) 健康情報管理のあり方をめぐって　宮上浩史（松下産業衛生科学センター）
座長　宮下和久（和歌山県立医科大学衛生学）
幹事会　12：00～12：50（生涯研修・地域医療センター研修室）
評議員会　12：55～13：20（生涯研修・地域医療センター研修室）
懇親会　17：00～　（生協食堂）

学会開催にあたって

和歌山県立医科大学衛生学教室
宮下　和久

秋深まる紀州和歌山の地で、第40回近畿産業衛生学会をお世話させて頂きますことを大変光栄に存じます。

会場となります私共の大学は、昨年一切の施設を和歌山市南部の紀三井寺の地に統合移転致しました。交通は少々ご不便をおかけしますが、真新しい施設をお使い頂けるものと思います。

午前の部は、例年通り一般演題の発表を、午後は、特別講演、シンポジウムそれぞれ一題を予定しております。

特別講演は、「新しいパラダイムに向けての産業保健」と題して、岐阜産業保健推進センター所長、岩田弘敏先生をお迎えし、橋本　勉教授の座長のもとに行われます。

労働者の健康問題は、労働環境、日常生活環境が複雑に絡み合っており、したがって、従来の１つの目的志向型のいわゆる「単純系」の健康管理の手法から、多くの要因を経時的かつ総合的に捉える「複雑系」の健康管理の手法へとパラダイムを転換していく必要があると思われます。本特別講演では演者の豊富な経験を基に、次世紀の新しい産業保健のパラダイムを講じて頂くことに致しました。

シンポジウムは「21世紀の企業における健康管理のあり方をめぐって」と題し、４人のシンポジストにお願いしております。21世紀を目前に控え、企業における新しいビジョンでの健康管理のあり方が求められていますが、有害業務における高濃度曝露から低濃度曝露へ、重労働負荷からの開放、ＩＴ化に伴う作業態様の変化、働く人々の高齢化に伴う健康確保、職場環境の快適化など様々な問題が次世紀にどのように変化していくのか、また、どのような新たな問題が待ち受けているのか、それぞれの立場で自由闊達に語って頂きたいと願っております。

本学キャンパスは、万葉に歌われた和歌の浦海岸、片男波に面し、背後には、西国第二番の札所紀三井寺を擁す名草山を控えた風光明媚な所です。秋の週末の紀州路和歌山の散策を併せて楽しんで頂ければ幸いに存じます。

会員の先生方の多数のご来和を心よりお待ち申し上げます。

第40回近畿産業衛生学会プログラム

第1会場（基礎教育棟3階・大講義室）

（10:00～10:48）座長　有田幹雄（和歌山医大・看護短大）

101　ＴＨＰにおける年代別の食事意識と生活習慣病リスクファクターの推移
○志辺　好、伊藤克之、葭川明義、岩根幹能、麦谷耕一、木下藤寿、茂原　治（㈶和歌山健康センター）

102　勤労者の生活習慣と健診データの変化（５年間のコホート調査から）
○細川恭一、松尾智紀、大川幸美、倉下直己、岩田清治、日野　孝、堀口俊一（㈶日本予防医学協会関西支部）

103　内臓肥満が健康診断結果に及ぼす影響
○麦谷耕一、葭川明義、神奈川芳行、大畑　博、岩根幹能、茂原　治（㈶和歌山健康センター）

104　健康診断におけるＢＭＩ変化と諸検査値変化との関係
－時系列調査と断面調査との対比－
○坂手誠治、鹿島容子、三原安律子、乾　正史、村田和弘、木村　隆、芹生陽一（近畿健康管理センター）

（10:48～11:24）座長　佐野　敦
（松下電子部品㈱本社健康管理室）

105　企業内フィットネスが健康度と医療費に及ぼす影響
○木下藤寿、伊藤克之、茂原　治（㈶和歌山健康センター）

106　効果的なヘルスプロモーションのためにマーケットインに着目した歯科検診の実施から
○久井志保（ﾌﾟﾛｸﾀｰ･ｱﾝﾄﾞ･ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ･ﾌｧｰ･ｲｰｽﾄ･ｲﾝｸ明石工場）

107　フォローアップ健診の指導効果についての一考察
○川畑真理、江島桐子、久保田かおる、梶岡恵子、黒崎理絵、堀川淳子、佐本利美、江嵜高史、古木勝也、朝枝哲也、池田正之（㈶京都工場保健会）

（11:24～12:00）座長　葭川明義（㈶和歌山健康センター）

108　事業所における食生活調査報告（第１報）
○上中まりこ、岡田　章（丸紅大阪健康開発センター）

109　「職場血圧」測定者を対象とした血圧測定についての意識調査
○佐藤弘昭、加藤俊夫、神　幹雄、石村重明、奥田武正、小谷隆子、小渕啓子、原田文子（三菱電機㈱系統変電・交通システム事業所健康増進センター）

110　過疎地における職域健康管理
○森岡聖次（和歌山県新宮保健所古座支所）

第2会場（基礎教育棟1階・講義室1）

（10:00～10:36）座長　車谷典男（奈良医大・衛生）

201　養護教員に観察された筋骨格系症状の関連要因
○山本信弘、松嶋紀子、東　裕子、車谷典男（奈良医大・衛生）

202　ＶＤＴ作業者の愁訴と健康診断結果の検討
○原　俊之、郷司純子（三菱重工業㈱神戸造船所）、深野　茂、土屋五郎（三菱神戸病院）

203　変形性膝関節症の患者調査：職業、運動、体重と症状の重篤度
○廣田良夫（大阪市大・公衆衛生）

（10:36～11:24）座長　大脇多美代
（富士銀行大阪健康管理センター）

204　職域の健康づくりにおけるメンタルヘルス活動に関する一考察
○南　佳宏、山本博一、宮井信行、松本政信、佐々木　健、森岡郁晴、宮下和久（和歌山医大・衛生）

205　看護婦の所属部署による職業性ストレスの違い
― 内科病棟、救命救急に勤務する看護婦の比較から―
○川口貞親[1)2)]、豊増功次[2)]、吉田典子[2)]、植本雅治[1)]
（[1)]神戸市看護大、[2)]久留米大・健康・スポーツ科学センター）

206　疲労困憊症状を持つ勤労者における心自律神経機能とその交絡要因
○渡辺丈眞[1)]、炭　美子[2)]、荒金　愛[2)]、河野公一[1)]
（[1)]大阪医大・衛生・公衆衛生、[2)]松下産業機器㈱配電器事業部健康管理室）

207　４直３交代勤務者における睡眠のとり方と満足度
○岩根幹能、神奈川芳行、麦谷耕一、大畑　博、葭川明義、伊藤克之、志辺　好、木下藤寿、今井健司、生田善太郎、茂原　治（㈶和歌山健康センター）

（11:24～12:00）座長　竹下達也（大阪大院・医・社会環境）

208　最近の職業性中毒相談例　―発生事情を中心に―
○原　一郎（大阪府勤労者健康サービスセンター）

209　ある地域における砥石作業者の追跡調査（第２報）
○今井啓登、小川捨雄、宮崎忠芳、朝枝哲也、池田正之、山田親久（㈶京都工場保健会）

210　シックハウス症候群を呈した職業性障害の一例
―職場環境を中心に―
○吉田俊明、松永一朗（大阪府立公衆衛生研究所）、南　豊彦、井野千代徳（関西医大・香里病院）、原　一郎（大阪府勤労者健康サービスセンター）

第3会場（基礎教育棟1階・講義室2）

（10:00～10:48）座長　河合俊夫
（中災防大阪労働衛生総合センター）

301　尿の濃淡の補正に関する検討（第６報）
― 尿中馬尿酸とデルタアミノレブリン酸の排泄比較―
○廣瀬隆穂、村田和弘、木村　隆、芹生陽一（近畿健康管理センター）

302　ALDH２遺伝子型と飲酒後の唾液・血漿アセトアルデヒド濃度との関連性
○竹下達也、森本兼曩（大阪大院・医・社会環境）

303　ピロールの経気道暴露による生体への影響
○土手友太郎、河野公一、渡辺丈眞、臼田　寛、三間千史、清水宏泰、富永美果、年名優美（大阪医大・衛生・公衆衛生）

304　1-ブロモプロパンの聴覚への影響に関する実験的検討
○山本博一、南　佳宏、宮井信行、ｹﾞｵﾌﾞﾝﾁｭｰ･ｵﾗﾜﾝ、森岡郁晴、宮下和久（和歌山医大・衛生）

（10:48～11:24）座長　小泉直子（兵庫医大・公衆衛生）

305　作業場で使用される有機溶剤の種類と管理区分の推移から見た作業環境管理
○八杉友次郎、山岡和寿（中災防中国四国センター）、河合俊夫（中災防大阪センター）、池田正之（㈶京都工場保健会）、圓藤吟史（大阪市大・医・環境衛生）

306　塗料はく離剤による中毒事例とＭＳＤＳ
○坂上佳司（関西労働衛生技術センター）

307　災害救援復旧作業の総合的安全衛生管理（第１報）
― 有珠山噴火災害に伴う除灰作業について―
○洙田靖夫、増井秀久、小泉直子（兵庫医大・公衆衛生）

（11:24～12:00）座長　寺下浩彰（和歌山県医師会）

308　社員全員を対象としたＢ型肝炎、Ｃ型肝炎のチェックとフォローアップについて
　○杉原久子、加藤俊夫、神　幹雄、奥田武正、石村重明
　（三菱電機㈱系統変電・交通システム事業所健康増進センター）

309　肝機能障害者での胆石合併について
　○増井秀久[1]、若林一郎[2]、瀬戸良文[3]、岩田信生[3]、垣下栄三[3]、小泉直子[1]（[1] 兵庫医大・公衆衛生、[2] 山形大・医・衛生、[3] 兵庫医大・２内）

310　超音波ネブライザー装置導入によるＩＣＰ発光分析の精度上昇効果
　○臼田　寛、渋谷保之、河野公一、渡辺丈眞、土手友太郎、西浦啓之、田川輝璋、小泉千里、中瀬惠美子
　（大阪医大・衛生・公衆衛生）

12:00～12:50　幹事会：生涯研修・地域医療センター研修室

12:55～13:20　評議員会：生涯研修・地域医療センター研修室

13：30～17：00　講　堂

地方会長・理事長・学会長挨拶

特別講演　13:40～15:10

「新しいパラダイムに向けての産業保健」

岩田弘敏（岐阜大学名誉教授・岐阜産業保健推進センター所長）

座長　橋本　勉（和歌山医大・公衆衛生）

シンポジウム　15:20～17:00

「21世紀の企業における健康管理のあり方をめぐって」

1) 健康管理の21世紀ビジョン
　北原照代（滋賀医大・予防医学）
2) 健康管理における企業戦略
　茂原　治（和歌山健康センター）
3) 産業看護の未来像
　西内恭子（大阪ガス・健康推進チーム）
4) 健康情報管理のあり方をめぐって
　宮上浩史（松下産業衛生科学センター）

座長　宮下和久（和歌山医大・衛生）

17:00～　懇親会：　生協食堂

会場への交通機関

1) ＪＲ阪和線利用　天王寺→和歌山駅（快速約60分）
　ＪＲ和歌山駅バス停
　のりば①または②医大病院行　「終点」下車
　　8時23・38分、9時22・50分、以後毎時22分、50分
　　または医大病院前経由紀三井寺団地行「医大病院前」下車
　　8時43分、以後毎時43分（所要時間約31分、370円）
2) 南海本線利用　南海難波駅→和歌山市駅（急行約65分）
　南海和歌山市駅バス停
　のりば⑥屋形経由医大病院行　8時15分、9時25分、以後毎時25分
　　⑩本町経由医大病院行　9時2分、以後毎時2分
　　「終点」下車　（所要時間約38分、370円）
　　⑩本町・医大病院前経由海南日限下行
　　8時25・55分、以後毎時25分、55分
　　「医大病院前」下車　（所要時間約26分、370円）
3) マイカー利用
　阪和高速和歌山インターより約25分。
　附属病院内には有料駐車場（700台収容、料金は1時間まで 100円、以後1時間毎に100円加算）があります。

学内の略図

1．参加の手引き
　1）受付は基礎教育棟1階で、午前9時30分から開始します。
　2）参加費は学会員1,000円、学会員以外は2,000円です。
2．演者の方へ
　1）1演題12分（口演7分・質疑応答5分）です。時間厳守でお願いします。進行は座長の指示に従って下さい。
　2）ＯＨＰ1台とプロジェクター1台を用意しています。プロジェクターを使用される演者は、当日、受付でその旨をお伝え下さい。
　3）学会誌「産業衛生学会誌」掲載用の抄録を予め400字以内にまとめ、当日、受付にご提出下さい。
　4）当日、資料を配布される場合には150部程度ご用意下さい。
3．幹事会および評議員会
　幹事会は生涯研修・地域医療センター研修室にて12時から、評議員会は同研修室にて12時55分から行います。昼食を用意いたしますので差額をご負担下さい。
4．懇親会
　学会終了後に学会場（生協食堂）で懇親会を行います。多数ご参加下さい。会費3,000円で当日受付いたします。
5．認定産業医および認定産業医を目指す方へ
　本学会での特別講演とシンポジウムへの参加により、日本医師会産業医認定制度による生涯（専門）研修3単位または基礎（後期）研修3単位が認められます。当日、医師会の受付で申請して下さい。
6．産業看護職の方へ
　本学会での特別講演とシンポジウムへの参加により、日本産業衛生学会産業看護職継続教育実力アップコースとして3単位が認められます。

第５回近畿産業医産業看護協議会の報告

第５回近畿産業医産業看護協議会を開催して

実行委員長　高　山　純　一
副実行委員長　上　田　進　子

７月６日第５回近畿産業医産業看護協議会が大阪府医師会館で開催されました。20世紀最後の協議会であることから「21世紀に向けた健康支援」というテーマが選ばれました。これは単に暦の上での節目としてではなく、数年来の厳しい企業環境の中で企業形態までも流動的になっていることに加えて、情報技術の驚異的な発展により業種の別なく業務内容が大きく変容してきており、これらに対応した健康管理のあり方が改めて問われている現状に焦点を合わせたものです。

特別講演では、千葉産業保健推進センターの荘司榮徳先生に「これからの健康支援と産業保健センター」と題してご講演を頂き、日本の産業保健の歴史的黎明に発してIT革命や超高齢少子社会などの問題に至る推移を踏まえて、現在と今後に向けての課題を示して頂きました。

シンポジウムでは神戸大学住野公昭教授、富士銀行大脇多美代先生の座長のもと、「産業構造の変化への対応と安全衛生配慮義務」と題して、産業医、産業看護、労働者の立場から３人のパネリストに発表して頂き、テーマに沿った課題が浮き彫りにされました。

今回は会場が医師会館の２階ホールに限定され、収容人員に制約がありました。このため参加申込者の一部の方にはやむを得ずお断りをしなければなりませんでした。参加して頂けなかった方にはまことに申し訳なく、お詫び申し上げます。

開催準備にあたっては、近畿地方会岡田章産業医部会会長、植本寿満枝産業看護部会代表のご指導と清田郁子先生ならびに事務局の方々の強力なご支援を頂きました。お陰様で大過なく協議会を終了することができ、実行委員を代表して心より感謝を申し上げます。

シンポジウム

産業構造の変化への対応と安全衛生配慮義務

座長：住野公昭・大脇多美代

まず始めに３名のシンポジストより産業医、産業看護、労働者側とそれぞれの立場から約15分間の報告を頂いた。茂原治先生（㈶和歌山健康センター）からは、産業医として基本ルール（グローバルスタンダード）を遵守しながら、専門職としてのスキルを磨くこと、ことに問題解決型思考・専門技能に共通してEBM、すなわち情報の共有化をはかり、ビジネスに役立つよう情報を活性化する力をつけることが重要と話された。鈴木純子保健婦（日本IBM大阪健康開発支援センター）からは現在直面している問題点、勤務形態の多様化、職場環境への不適応、日本型経営の崩壊、裁量労働制による時間自己管理、女性労働問題等を具体的にあげられ、多様化している勤務形態の中で安全衛生をどのように捉えて行くか、又サポートする産業保健専門スタッフのスキルをどのようにして上げるか等提示された。西野方庸氏（連合大阪労働安全衛生対策会議事務局）からは労働者の立場で外注化、雇用形態の多様化と安全衛生の視点から、パートタイマー、アルバイト、嘱託、派遣労働者などの非正社員に加え、請負形式での就労形態も増加傾向にあり、働き方の多様化が安全配慮義務の範囲を拡大していると指摘。又、産業医の活動も中小企業では形骸化しており、今後は50人未満事業場の産業保健対策の充実については、地域産業保健推進センター事業を積極的に活用し推進することが必要と提言された。全体のディスカッションでは第１部の荘司榮徳先生（千葉産業保健推進センター）にもご参加頂いた。会場からは「虚血性心疾患の多重危険因子を持つ発症リスクの高い従業員に対して、就業制限を含めた安全配慮はどのようにすれば？」、「請負スタッフを雇用している場合の健康管理、安全配慮義務は、派遣先それとも派遣元どちらで行うのか？」、「メンタルな問題について復職判定の際、主治医との連携については看護職が重要な役割を果たしている」など質問や意見が出された。今回のテーマは多様化する産業構造の変化への産業保健の対応方法と、そこから発生する安全配慮義務をどのように考えるかという二つの大きな柱があり、時間が足りなかった事もあって、今一つ核心部門にまで掘り下げられなかったが、このテーマは重要な内容であり次の機会に更なる展開を期待したい。予定時間をややオーバーしてシンポジウムは無事終了した。

(文責：大脇)

報　告

第41回じん肺研究会

代表世話人
国立療養所近畿中央病院
副院長　坂　谷　光　則

今回のじん肺研究会は、第３回労災病院じん肺勉強会と合同で、新築された神戸労災病院を会場に、去る７月29日（土）の午後に開催された。大西内科部長のお世話で、神戸の港と市街を一望できる新南館７階の会議室に大型のシャウカステンを３台並べ、９症例を勉強した。今回は、これまでの典型症例の勉強から脱却し、熟考判断しなければ落とし穴に陥る、と言える様な症例を選び提示した。概要を述べると、大陰影有る４型として診断書記載を要請されたが、実は肺癌合併が申告されていなかった珪肺。石工肺に治療に難渋する感染症が合併しており空洞が見られる非定型抗酸菌症。これは続発性気管支炎と珪肺結核のどちらとして処理するか。次第に進行して呼吸不全となり死亡した溶接工肺が、末期にはかえって異常陰影が認められなくなっている。病理解剖所見とＸ線写真との比較検討。金庫製造技術者に認められた不整形陰影を呈するじん肺の種類は何か（石綿肺）。金属くず回収再生業者に発生したアルミ肺。職歴もあり、当初じん肺と考えられたが、病理組織検査にてそれぞれ非じん肺疾患であるDIP、UIPと診断された鋳型工と建築解体業者。長期間経過観察され、Ｘ線所見の推移がよく解る珪肺例など。

今回は支部会ニュースに開催案内が掲載されたこともあって、前世話人の横山先生を初め約30名の出席者があり、活発な症例検討が行われ、眺望の良い別室での懇親会でも話題は尽きないほどであった。

次回の研究会は、国療近畿中央病院（堺市）の新築された研修棟を会場に、来年度の早々に開催を予定しており、職業性肺疾患に関心を持っておられる多数の方々の参加があることを期待しています。

産業衛生講座特別研修会

座長のまとめ

大阪市立大学大学院医学研究科教授
圓　藤　吟　史

1.産業保健を総括する　過去―現在―未来
　日本産業衛生学会近畿地方会長　堀口俊一
2.国際的産業保健
　神戸大学医学部公衆衛生学教授　住野公昭
3.経験的産業医学から事実に基づく産業医学へ
―硫酸製造工業プラントにおける急性水銀の事例検討―
　京都大学大学院医学研究科教授　小泉昭夫

平成12年４月に日本産業衛生学会70年史が発行されたのを記念して、産業衛生学のあゆみを世代の異なる講師による産業衛生講座の特別研修会が開催された。当日は270名収容可能の会場に補助席を出さなければならない程盛況であった。

堀口俊一　先生

一席の堀口俊一先生は、日本の近代以降の産業保健（労働衛生）を、1)歴史とは、2)我が国における近・現代の産業保健の時代区分、3)我が国近代の産業保健（労働衛生）、4)現代の産業保健（労働衛生）、5)産業保健の未来、6)総括として系統的に講演された。

住野公昭　先生

二席の住野公昭先生は、国連サミットの各国首脳の集合写真を例に、世界の一員としての行動と日本人の行動パターンの違いについて話された。抄録には70年史に掲載されている“新世紀の産業保健のために”の中から座談会形式で記載されている国際産業保健について、1)海外赴任労働者、2)外国人労働者、3)国際（技術）協力、4)国際共同研究に分類してまとめられた。

小泉昭夫　先生

三席の小泉昭夫先生は、従来より硫酸製造プラントで頻発するパイプライン更新従事者にみられる亜硫酸ガスによる中毒とされた製錬所病は、1993年の原因究明の調査により亜硫酸ガス中毒のほかに水銀ヒュームによる水銀中毒との混合障害であることが確認された。亜硫酸ガス中毒と認識していたため、呼吸用保護具が水銀蒸気の曝露防止に無効であった。産業医学では、思い込みが重大な中毒対策を誤った方向に導くので、事故が起こった場合は十分な証拠に基づいて判断をしなくてはいけないことをこの事例が教えてくれたとまとめられた。

報　告

第23回 日本がん疫学研究会を主催して

大阪大学大学院医学系研究科 社会環境医学講座（環境医学）
森　本　兼　曩

平成12年７月13,14日に、第23回 日本がん疫学研究会が、「ライフスタイル変容と遺伝素因」をメインテーマとして、淡路島にオープンしたばかりの夢舞台国際会議場において開催され、私どもがそのお世話をいたしました。今回の研究会は、初めて、第7回日本がん予防研究会（ 会長：大阪市大 福島昭治教授）との合同開催として開かれました。

最初の会長講演では、私が「包括的ライフスタイルと健康度評価」と題して、８つのコホート集団を追跡して得られた生活習慣と精神・身体的健康度指標との関連性、およびその生活習慣変容への応用に関する発表を行いました。特別講演において、順天堂大学免疫学の奥村　康教授は、「NK活性と生体防御」(NK活性＝ナチュラルキラー活性、がん免疫力の指標)と題して、幅広い免疫学的健康問題の基礎理論およびその生活習慣との関係について、大変わかりやすく解説してくださいました。これを受けた教育講演では、埼玉県立がんセンターの中地　敬先生が、埼玉県のある町で10年余りの追跡調査の結果、NK活性がその後のがん罹患と相関していたという注目すべき結果を発表なさいました。

次に国際日本文化研究センター所長の河合隼雄先生より、「ライフステージについて」と題した特別講演がありました。ヒンドゥー、フロイト、ユング、エリクソンなど、話題は広範囲に及び、人生の後半期の意義、また思春期のイニシエーション儀式の意義など、心にしみ通るお話をうかがうことができました。

１日目の最後に「行動変容の主体性とヒューマンサポート」と題して、福岡大学公衆衛生学の守山正樹教授と大阪がん予防検診センターの中村正和先生による対談が行われました。お二人は、ライフスタイル変容を目指すアプローチ方法がかなり異なっており、お互いの方法論についての白熱した議論が展開されました。その議論は懇親会までも続きました。

２日目の午前中、「ライフスタイル環境と遺伝素因の交互作用」と題して、浜島信之（愛知県がんセンター）、竹下達也（大阪大環境医学）、津金昌一郎（国立がんセンター研究所支所）、葛西　宏（産業医大職業性腫瘍学）、酒井敏行（京都府医大公衆衛生学）の５氏により、それぞれ交互作用検討の統計学的方法論、飲酒行動の遺伝素因、症例対照研究に基づく遺伝素因解析の方法論、白血球および尿中の8-OH-dG測定と健康との関連性、発がん感受性に対する食物成分による分子修飾、という、今後重要性を増す先端的テーマに関する熱心な議論が行われました。

全体を通して、のべ１００名を超える参加者を得て、盛会裏に終了することができました。

第26回国際労働衛生会議報告

大阪府立成人病センター調査部　森永謙二

８月27日から９月１日までシンガポールのRaffles City Convention Centerで第26回国際労働衛生会議（ICOH）が開催されました。参加者は97ヶ国から約2,000人が集まりました。

応募演題はミニシンポ337題、フリーペーパー635題、ポスターが645題でしたが、フリーペーパーとポスターあわせて約200題のキャンセル（特にポスター）がありました。午前中に基調講演が合計９つありましたが、これらの基調講演の内容は抄録とは別に製本されて参加者に配布されています。

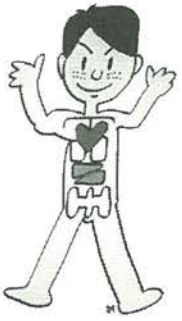
さて、私が参加したセッションは塵肺、肺がんの疫学、アスベスト、人造鉱物繊維の分野でしたが、会場は50人程度しか椅子が用意しておらず、いつも会場は一杯で扉の外から聞いている参加者もいたほどでした。その他の会場も同様に満員のところもあれば、比較的聴衆者が少ない会場もありました。

人造鉱物繊維（MMMF）と肺がんの疫学調査ではアメリカとヨーロッパから最新の症例対照研究の結果が報告され、ともにMMMFとの関連はなく、喫煙のみが有意の要因であることが報告され、2001年10月に国際がん研究機関IARCが再評価をする、という情報が得られました。

日本の会員数はアメリカ、フランスに次いで148人と３番目に多いとのことですが、ICOHの各国のセクレタリーの集まりで、佐藤洋東北大学教授はさらに15%の会員増を求められたそうです。世界の労働衛生に関する最新情報にアクセスする方法としては会員になり、関心のあるScientific Committeeに所属するのが良いと思います。

次回の開催は2003年２月23－28日ブラジル、イグナスの滝近くのFoz do Iguacuで、次々回は2006年イタリアのミラノで開催されます。

私たちはめざします。健康の創造を！
定期健康診断から成人病健診・人間ドックまでトータルヘルスケア



ＫＫＣﾈｯﾄﾜｰｸ
■滋賀事業部　077-551-0500
■彦根事務所　0749-22-8089
■京都事務所　075-662-7692
■大阪事業部　06-6304-1532
■兵庫事業部　078-230-7530
■三重事業部　059-225-7426
■名古屋事務所　052-735-0821
■東京事業部　03-3242-5290
■事　務　局　077-525-3233
■公益事業局　077-525-7744
http://www.zai-kkc.or.jp/
労働大臣許可　労働者健康保持増進サービス機関
KKC 財団法人 近畿健康管理センター

第26回国際労働衛生会議（ICOH）に参加して

中災防　大阪労働衛生総合センター　大柴　聡

第26回国際労働衛生会議（ICOH）が、8月27日から9月1日まで6日間の日程で、シンガポールにおいて開催された。

この会議は1906年に第一回の会議がイタリアのミラノで開催されてから今回で26回を数える。学会場には、シンガポールの中心に近いラッフルズシティ・コンベンションセンターがあてられ、アジア各国、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ等から約2,000名が参加して行われた。

基調講演は9題で、スウェーデン2題、日本、フィンランド、フランス、中国、ブラジル、アメリカ、イギリスでそれぞれ1題の報告がなされた。その他に、ミニシンポジウムが329題、口述発表が635題、ポスターセッションでは645題が報告された。

今回は、Effects of countermeasures for vibrating tool on workers using an impact wrenchと題してポスターセッションで発表を行った。当日の会場は最終の1日前であるにも関わらず多くの参加者がおり、13：00から17：30までが討議の時間に当てられた。質問内容にはまず自国の振動障害の状況を述べ、その後でポスターに対する質問を述べる形式での会話であり、日本におけるポスターとの違いを実感した。ポスターの配置が発表分類別に配置されており、今回は隣のポスターが韓国での種々の振動工具取扱者の工具振動レベルと白指の関係であったため、そのポスターを使用しての質問もあった。その他、全身振動に関する発表も行われていたが、今回は時間がとれず、全部に参加することが出来なかった。

シンガポールはアジアの多民族が同居する国である。それぞれの文化の特色を持ちながら一つの国を形成しているシンガポールは、初めて訪ねた私には新鮮であった。

第26回国際労働衛生学会に参加して

神戸市看護大学保健看護学　中島美繪子

今回の学会のメインテーマは、「健康な働く人、健康な職場：新千年期」（HEALTHY WORKER, HEALTHY WORKPLACE : A NEW MILLENNIUM）であった。1906年にイタリアのミラノでスタートしたICOHの歴史、特にこの20年間を振り返った上で、新千年期の、グローバル化に伴う社会、経済（多国籍企業、産業構造の変化等）、情報通信技術に代表される技術的進歩／変化に伴う安全・健康・環境が話題となった。雇用者からは高度の仕事の質や能力が求められ、働く人の側からはQOLを求める。高齢者の増加、雇用労働者の増加等の問題もある。これらに対応するには、組織（ワークオーガニゼーション）と心理的社会的要因への対応が重要であるという。国による労働問題の違いもある。旧来の問題を残しながら、新たなヘルスケアの試みが始まっている。

産業看護の分野でも、ミニシンポジア、演題、ポスターセッションで、活発な議論が交わされた。米国の産業看護研究者から、NORA（National Occupational Research Agenda）の21の重点研究分野への産業看護の取り組みの紹介もあった。

学会のディナーでは、京劇の舞にみとれた。にしき蛇も登場し、驚かされた。

シンガポールは、緑の多い国際都市で、IT技術を駆使した高速道路集金システム（現金の受け渡しをせず、特定のポイントを車が通過する時カードで感知する；ERP）や美しい蘭の花、夕方から開園するジュラシックパークさながらのナイトサファリの体験（ここで、今は稀少野生動物のボンゴもみました！）等が印象的であった。

学会最終日の午後、日本から参加した産業看護職の有志でジュロン工業地帯にあるNAT STEEL会社（国営企業として出発し、自動車のスクラップから建築用資材等を製造している）を訪れ、オフィサー・ナース（シニア産業看護婦・士；SOHN）のビンセンさん（男性）の好意で、シンガポールの産業看護の実際と製鉄業の工程の工場見学も体験した。3交替勤務者が720人働いており、耳栓を必要とする人が450人おり、騒音対策には、特に力をいれ、以前より効果をあげているとの事だった。学会に参加して、様々な学びや気づきが得られ、ゆっくり意見交換が出来たことがよかった。

Healthy Society

■ヘルスアセスメントから健康支援を
□ライフスタイル診断
□食生活診断
□健康体力診断
□ストレス診断
□ヘルスナビ

■データベースから健康支援を
□データベース作成サービス
□パソコンソフト「ヘルシーWin」
□インターネットサービス

財団法人 日本予防医学協会　http://www.sunnet.or.jp

本部　東京都江東区扇橋 1-21-25　TEL03-3649-3651
関西支部　大阪市北区西天満 5-2-18　TEL06-6362-9041
西日本支部　福岡市博多区博多駅前 3-19-5　TEL092-473-0547
名古屋出張所　名古屋市東区代官町 39-18　TEL052-931-0526

── 医師会だより ──

奈良県医師会（産業医部会）の産業保健活動への取り組み

奈良県医師会産業医部会会長　塩見　俊次

奈良県の状況

奈良県では、地場産業などにおける有機溶剤および粉じんによる障害や県内の大部分を占める南部の山間部における林業関係者の振動障害などの問題が今なお存在しております。他方、北中部では各種交通機関の整備に伴い各企業の進出および大阪を中心とする大都市のベットタウンとしての様相を呈しており、人口増加が著しい傾向にあります。

しかし、存在する事業所の大多数は30名未満の小規模事業所であり、これらに対する健康保持増進が重要な今日的課題のひとつであると思われます。

また、本県における産業保健活動の促進には昨今の大不況により大企業を含む大多数の中小企業は未曾有の経営危機にさらされており、事業者は経営の安定を、また、従業者は雇用の確保に重点をおかざるを得ない現状にあると思われます。

地域産業保健センターの活動状況

奈良県内では、各労働基準監督署と同一の地域を管轄する北和地域産業保健センター、葛城地域産業保健センター、桜井地域産業保健センター、南和地域産業保健センターの４ケ所のセンターが平成８年度に設置を完了いたしました。

各センターでは窓口相談、訪問指導など産業医およびコーディネーターを中心として地域の実情にあった様々な工夫を試みながら積極的に活動しており、奈良労働局、各労働基準監督署、各関係団体などとの連携を密にしながら小規模事業所の産業保健活動の活性化に寄与されています。

しかし、奈良県では、奈良県医師会をはじめとする各関係機関などのご尽力にもかかわらず、いまだ産業保健推進センターが設置されていないことに非常に憂慮しており、これら地域産業保健センターを支援する観点からも一日も早い設置が望まれています。

奈良県医師会並びに産業医部会の取り組み

奈良県医師会では産業保健活動を地域医療の重要な柱のひとつとして受けとめており、奈良県医師会産業医部会を中心に産業医の資質向上と養成を目的とした研修会などの活動を展開しております。

労働安全衛生法の改正にともない、日本医師会認定産業医制度における認定医の資格取得を積極的に進めているところですが、最近では、勤務医の資格取得者および申請希望者の増加傾向が顕著にみられ、関心の高さを示しています。

産業医部会では年間10回以上の研修会を開催しており、特にその内３回の事業所実地研修では、労働局並びに県内各労働基準監督署の全面的な協力を得て実施しています。事業所実地研修の目的としては、実際に事業所を訪問し、現地にて各事業所における安全衛生管理体制の現状などの説明を受けながら職場巡視を行い、各参加者から疑問点や問題点を提起することにより活発な討論が行われることを研修の主体としており、非常に高い人気を得ております。

既に産業医活動に携わる会員の先生方には、別の違った視点から他の事業所をみることで、自身の受けている事業所に対して、今後、何か生かせることはないかなど各自で検討いただき、更なる従業者の健康保持増進のために、その事業所に助言、指導を願えれば幸甚であると考えています。

他方、これから産業医をめざす先生方には、この事業所実地研修において得た知識をいずれ携わるであろう産業医活動に是非とも役立てていただきたいと願っております。

また、奈良県医師会、労働行政、事業者団体の三者が定期的に会合を行うことにより、労働者の健康保持増進などについて協議しております。

お知らせ

日本産業衛生学会近畿地方会の活動に際し、常々ご支援をいただいております近畿地方の産業保健推進センターをご紹介します。

所　長　瀬尾　攝　様
副所長　杉田希史男　様

兵庫産業保健推進センター

広い県内です。11の地域産業保健センターがあります。来る新世紀に向け、地域センターへのより効果的な支援とは何かを把握し、全県的な産業保健活動の牽引車となる役割を果たす推進センターでありたい、と考えています。

また、各医師会、労働行政機関、事業者団体及び、労災病院との連携の強化を図っていくこととしております。

所　長　植松　治雄　様
副所長　一色　孝徳　様

大阪産業保健推進センター

大阪府下には中小企業が多く、事業主セミナーの開催等により、労働者の健康管理の重要性について啓発に努めるとともに、府下の13地域産業保健センターで産業医産業保健研修会を開催する等、産業保健スタッフに対する研修にも積極的に取り組んでおります。

所　長　横田　耕三　様
副所長　前河　舟志　様

京都産業保健推進センター

京都は産業保健になじみの深い重厚長大型産業はほとんどなく、繊維産業、観光産業、伝統産業等小規模の事業場が大半を占めているが、一方、先端技術産業をはじめとするベンチャー企業の進出・発展はめざましいものがあります。府下では小規模事業場が多いことから、センター業務のなかでも地域産業保健センターの支援に力を注いでいます。

所　長　杉本　寛治　様
副所長　岩崎　治　様

滋賀産業保健推進センター

滋賀における産業保健活動の応援拠点として、近畿で4番目（平成11年6月）にオープンしました。11名の専門スタッフが健康管理、健康教育、環境改善等、産業保健活動全般に関する相談に応じ、また、情報誌「OHMY淡海」を年3回発行し、各種の産業保健情報の提供を行っています。

所　長　杉浦　實　様
副所長　吉田　信二　様

和歌山産業保健推進センター

本年6月、和歌山城が眺望できる和歌山市八番丁11日生八番丁ビル6階に和歌山産業保健推進センターを開設いたしました。所長以下4名の職員と専門スタッフ11名で、産業保健のことなら何でも気軽に相談できるセンターをモットーに施設及び環境整備を図り、産業保健関係者等の積極的なご利用をお待ちしています。

「つぶやきコーナー」

拡充センター雑感

（医）松山医院
堺市医師会産業保健担当理事
松　山　文　夫

平成11年度より堺地域産業保健センターはその機能を強化する拡充センターに指定された。これは中小規模事業場が集積する都市部の地域センターを中心に進められており、平成11年12月現在、全国52ヶ所の地域センターが拡充センターとしてモデル的に開始されている。これにより、夜間・休日の健康相談、メンタルヘルス相談窓口の開設、更に地域産業問題協議会を新たに設置することを条件に、現行の2倍近い予算措置がなされ、地域センターの活性化を促さんとするものである。

その結果、予算執行は出務費、旅費、庁費と枠組みが定められてはいるものの、今迄PRが不足しているとよく云われたが、少しは地方ミニコミ紙や堺CATVも利用出来るようになった。又「人は石垣　人は城」ではないが、地域センターの運営にあたっては産業医やコーディネーターなどのマンパワーの確保は大事であり、中でも地域センターはコーディネーターの活動が中心となって展開する場合も多く、その力量如何によって事業の発展が左右されると云っても過言ではない。ところが、産業保健活動推進全国会議や府医産業医会常任委員会の席上でも、コーディネーターの働きについては思うように動いてくれないとの不満が非常に多い。中には全てをまかしていたら年度末の決算で多額の使途不明金が出たなどと云う話も聞く。

我々の拡充センターも受託以来、監督署、行政（堺市）の協力を得て着々と条件整備につとめ、週日夜間、休日の健康相談窓口9ヶ所の設置等も出来、コーディネーターも2人制とし、公平な出来高払い制で出務費を支給し、仕事の内容もきっちり守って意欲的にとり組んでもらっている。こうなる迄にはいろいろあったが、現在は瑣事から解放され、本来の産業医部会や地域センターの運営に専念出来るようになった。今後は運営協議会のメンバーである行政（堺市）の協力を得て、保健所の栄養士による栄養指導や保健婦による女性の多い職場への個別訪問等、ソフトな保健サービスも加えることも考えている。

＊＊

枠について考える

新日本製鐵（株）
堺製鐵所　産業医
辰　巳　佳　次

臨床系の先生に、産業医とは何かと聞かれ、労働省を横目に見てする仕事だと説明したところ、妙に納得されたことがある。労働省の決めた大枠にそって、ズッーと産業医の仕事をしている。この大枠が、時として狭苦しいものに感じることがある。

専属産業医として就職し、関連企業の嘱託産業医も始めた頃、監督署から内々に、専属産業医が嘱託産業医を兼務するのは望ましくない、との打診があった。あくまで専属は専属、兼務をしたらだめと仰る。会社は、「健康状態も、職場の様子もみんな理解してもらっている。先生に産業医をお願いしたい、名前だけの産業医ではいや」との事。会社から強く申し出てもらい、この話は立ち消えとなった。現実に合わなくとも、条文に当てはめようとする強い枠に初めてあった出来事であった。（幸い、ようやく最近、一定の条件で兼務が認められるようになった。）

反対に、枠がだんだん小さくなっていくこともある。定期健康診断個人票の記入欄が益々小さくなっていく。様式が大きくなり、裏面も使っても、健診項目が増えて、所見記入欄が小さくなっていく。深夜勤が有るか、残業は多いか、煙草は吸うか、また酒は、運動は…と聞いても、書くスペースがない。診察時に確認しても記録に残せない。次回につながる健康診断ができない。これだけ生活習慣が問題になり、脳心事故が問題となっているのに、それを判断できるようには健康診断個人票はなっていない。形式にこだわるようだが、形式が行動を決めてしまう。様式第5号の個人票は、現在の健康管理の問題点を如実に表しているように思われる。

いまの産業衛生は、労働省の決めた枠の中で迷走しているように思われてならない。ＯＨＳＭＳなら、この枠を越えられるかもしれない。また、厚生省との統合で、新たな健康管理の枠がみえてくるのかもしれない。しかし、前者の場合、枠が無くなってしまう事への漠然とした不安があり、後者は、労働者や企業がどこかに消えてしまって、健康管理だけが残ってしまったということにならないか不安である。枠をハッキリさせ、その枠が必要かどうかを考え直すのが第一と思うが、その時間は有るだろうか。心配である。

「つぶやきコーナー」

日本産業衛生学会近畿地方会 産業衛生技術研究会

中央労働災害防止協会
大阪労働衛生総合センター

竹　内　靖　人

表記研究会を平成12年９月14日（木）午後１時～午後４時、大阪市立労働会館（アピオ大阪）において開催した。「作業環境における最近話題の微量化学物質」というテーマで講演があり、意見を交換した。まず、熊谷信二先生（大阪府立公衆衛生研究所労働衛生部）が、「焼却場労働者のダイオキシン曝露」という演題で発表された。一般の人と比較すると焼却場労働者はジベンゾフランの曝露が高い。これは作業場の堆積じん中のジベンゾフランによるものが大きいと考えられる。したがって、コストのかかる血中ダイオキシン量を測定するよりも、堆積じんに着目して労働衛生管理を進めるのが効率的ではないかと、まとめられていた。次に、私が「環境中のビスフェノールＡの測定法」という演題で発表した。内分泌攪乱物質として話題になっている物質であるが、環境中は微量であるため、高感度の測定が必要である。そこで当センターが開発した高感度な測定方法を紹介した。

また今回、特別講演として「新規化学物質取り扱い現場における労働衛生保護具」というテーマで、田中茂先生（北里大学医療衛生学部講師）に講演していただいた。うまく改善できない作業や非定常作業では、防毒マスクをはじめとした保護具が必要不可欠である。しかし現状は、適切な使用や選定がなされていない。先生は、適切な保護具の選定のために現場で活用できるデーターベース作成を提案された。

参加者は31名であった。今回のテーマである「最近話題の微量化学物質、新規化学物質」については、十分な研究がなされていないため情報が少なく、どの事業場でも問題になっいてるものと思われ、皆さん大変関心があったようです。

＊＊

保健婦等産業保健継続研修において

「産業看護職継続教育ー実力アップコース（集中講座）」開かれる！

NTT西日本兵庫健康管理センター

上　田　進　子

大阪産業保健推進（兵庫、京都、滋賀）センターと近畿産業看護部会の主催により、産業看護職継続教育システムによる「産業看護実力アップコース」、カリキュラム『産業看護技術－ケアコーディネーション』の研修が開催されることになった。

講座は継続・集中（シリーズ）方式で、各地方会でも初めての試みである。８月９日、25日、９月29日の３日間継続して受講することで、実力アップコース「Ｖ産業看護技術－６ケアコーディネーション」の必要単位の８単位を取得できる。『ケアコーディネーション』とは、わが国では、ケアマネジメントと同義語として使用されることが多く、高齢者介護システムが検討された中で構築された概念を産業の場で展開するための研修である。

参加者は34名であり、講師小西美智子（広島大医学部保健学科）先生で、「産業保健におけるケアニーズのアセスメントのポイント」「ケアコーディネーションのための有用な資源と活用方法」「展開過程」「チームアプローチ」「評価」等ケアコーディネーションが総合的に理解できるように研修計画が立てられている。

看護技術に関する研修を継続して受ける機会が少ないので、卒業後うん十年の私には大変よい勉強になった。

また、受講者全員がもれることなく修了して実績をつくり、集中方式が定着することを願うと共に、この方法が全国的に広がっていくことを期待したい。

お知らせ

近畿地方会労働衛生法制度研究会（第6回）

日　時：平成12年12月2日（土）14：00～17：30
場　所：近畿大学会館（近鉄日本橋駅より徒歩2、3分）
〒542-0073　大阪市中央区日本橋1-8-17
TEL06-6213-0501
講　演：「ILOにおける国際労働基準（国際労働条約・国際労働勧告）の法的意義について」
ILO条約・勧告を何らかの意味で利用・引用する場合に、法的な立場から押さえておいた方が良いと思われる点（国際労働基準の目的、定義、採択手続き、条約と勧告の法的性格・関係及びカテゴリー別の分類、国際条約としてのILO条約など）についてお話ししていただきます。
講　師：山田耕造　京都府立大学福祉社会学部教授
専門：社会保障法、労働法
現在のテーマは障害者の雇用保障・所得保障をめぐる法的問題
会場世話人：三柴丈典　近畿大学法学部講師
TEL 06-6721-2332（3514）
連絡先：近畿地方会労働衛生法制度研究会事務局
〒520-2129　大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学予防医学講座　西山勝夫
TEL/FAX 077-548-2187

第5回近畿産業医部会研修会

日　時：平成13年2月3日（土）13：30～16：30
場　所：大阪市立大学医学部学舎　4階大講義室
（JR／地下鉄天王寺駅より徒歩10分）
メインテーマ：いわゆる過労死を巡って
日医認定産業医　基礎後期／生涯専門3単位申請中
産業看護職継続教育実力アップコース単位申請中
申込方法：氏名・勤務先名（職種）・連絡先FAX（TEL）を楷書で記載し、FAXもしくは葉書でお申し込み下さい。電話でのお問い合わせ・お申し込みは御遠慮下さい。なお、定員超過の為、参加して戴けない場合のみ連絡致します。（受付開始12月1日より）
申込先：〒550-0005　大阪市西区西本町3－1－23
大阪市交通局健康管理室
実行委員長　引石文夫
FAX 06-6531-0928

議事録

平成12年度第2回幹事会

日　時　平成12年8月9日（水）16：00～18：30
場　所　大阪市立大学医学部学舎　12Fセミナー室2
出席者　堀口　藤木　徳永　圓藤　岡田　車谷　小泉
宮上　平田　河野　原　宮下（計12名）
欠席者　垰田　植本　上田　田中　桝屋　河合　住野
兼高　橋本　日高（計10名）
（敬称略、順不同）
事務局　清田　穐吉
堀口会長の開会の挨拶後、会長が議長となり幹事会が進行された。

1．報告
(1)本部理事会報告
圓藤理事より7月1日（土）に開催された本部理事会の審議事項（9件）と報告（10件）が資料に基づき説明された。
(2)第40回近畿産業衛生学会進捗状況
宮下幹事より11月18日（土）開催について資料に基づき説明がなされた。

2．議題
(1)日本産業衛生学会近畿地方会出版計画案について
産業衛生講座での講演原稿をまとめて出版することに関して徳永理事から説明がなされた。結論は10月の臨時幹事会まで継続審議事項となった。
(2)近畿地方会50周年記念事業の件
平田幹事より平成14年5月25日（土）に、総会開催時に式典、記念シンポジウムおよび懇親会を実施したい旨の提案が出され、承認された。
(3)平成13年からの総会の開催曜日の変更について
来年より5月の土曜日開催が承認された。

編集後記

開放的な夏は好きですが、子供時代の夏の毎日が楽しいという思いは失せてしまいました。先日学会で常夏の国に行きましたが、四季のある日本に暮らせる幸せを実感いたしました。でも三宅島をはじめ火山の動きが不気味な近頃の日本は心配で、この号が発行される時には疎開されている方々が我家に戻られ、自然との共生が再開されている事を祈念しております。

さて、今年もあと3ヶ月、この号が本年の最終号となり、来年1月号の編集会議も済んで準備に入っております。

20世紀もあと3ヶ月、戦争を知らない私世代もそれなりにめまぐるしい年月を重ねてきました。少し立ち止まって深呼吸し、21世紀へ向かいたいと思います。

（清田）

編集委員（五十音順）
上田美代子、植本寿満枝、岡田章（編集責任）、兼高明生、清田郁子、日高秀樹、宮上浩史

次回発行日　2001年1月15日
次回原稿締切日　2000年11月30日